

若葉台地区社協だより

平成31年2月25日 No.121
発行／若葉台地区社会福祉協議会
会長 熊谷 善友
旭区若葉台3-2 連合自治会館内

賛助金ありがとうございました

(会長 熊谷善友)

日頃より若葉台の住民の皆さまのための福祉にご尽力いただくとともに、地区社協の活動にご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。

1月～2月にかけて住民の皆さまからお預かりした賛助金の報告をさせていただきます。お預かりした賛助金は、みんなあつまれ、高齢者交流会、孫子老の日、障がい児・者理解作品展などの行事、地域のボランティア団体等への助成、地域福祉課題解決推進等の活動財源として使わせて頂きます。

ご協力頂いた皆さまには、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

2月14日現在

自治会名	賛助金額
第一自治会	105,100円
東自治会	109,600円
二丁目南自治会	173,300円
北自治会	113,400円
中央自治会	62,700円
とちのき自治会	76,600円
ゆりのき自治会	33,000円
西自治会	40,500円
もみじ自治会	58,200円
あかね自治会	46,100円

また、募集時にお伺いしたご意見については、その内容を検討して地区社協単独でできるものは速やかに取り組んでまいります。その他関係組織との調整が必要なものについてはご意見をお伝えすると共にその実現に向けて働きかけを行ってまいります。また同時に地区社協に対する感謝・激励の言葉も数多くあり地区社協役員・理事の活動の励みになります。頑張ります！

※収支報告は6月号に掲載します。



賛助金募集時に添えられていたご意見のまとめとそれに対する提言

(副会長 太田正廣)

賛助金募集時に頂いた提言から若葉台地区社協が何をすべきかの視点を纏め検討を行った内容を下記に記します。既に実行に移された内容も含まれていることお許し願いたい。

1) 本来の福祉の充実に力が注がれていないと指摘されたことを含め、若葉台地区社協には、以下の早急に検討すべき点がある。

1-1) 4大行事はもとより、社協年間行事を見直す。雨天の場合でも実施可能で、負担増が少ない内容を検討中です。

1-2) 賛助金を原資とした補助金各福祉団体に配分するだけでなく、その活動内容が見える化、可視化すべきである。「社協だより」をより見やすい紙面にするとともに、スマホ・ネットからも見やすい環境を整える。

1-3) 連合・地区社協・行政・ケアプラザ・福祉活動Gの役割一覧表の作成を検討する必要性がある。

2) 若葉台及び取巻く地域環境変化に対応する方策を策定し実施すべきである。特に認知症対策・孤立化防止の仕組みを推進する。

世代を超えた助け合いを認知症＝高齢者、子育て＝若夫婦などからの既成概念から離れ、支援を必要としている人達の発見と具体的な方策の実施を行う。また若葉台でも若年者に心身の病が発症していないか、引籠もりがおきていないかを見出す方策の検討を行うべきである。さらに親を介護する人へのサポート体制作りも必要である。独居者支援をケアプラザ・ひまわり・老人会の友愛活動・自治会福祉部等との連携が必要である。

具体的には、家族や近隣住民の目・耳・足では守りきれない点を補完し自治体の施策と自治会等の自助・共助努力と現代的情報端末（ICT技術）活用の組み合わせを調査・研究し実行に移す。特に利用費用と利用し易さが大事である。見守り事業の一部は既にNPO若葉台・ケアプラザ・民間企業等で事業化されている。見守りの多重化を行うことにより一層の確実な対策が実施できると思われる。

認知症行方不明者の警察への届け出数は（2017年警察庁）全国15,863人、神奈川県934人、東京都1284人。団塊世代が75歳を迎える2025年には全国で認知症者が700万人位（厚生労働省）と予想されている。認知症者の全国割合を若葉台に単純適用すると100人強の認知症者が居ることが予想される。

H29年度若葉台ケアプラザ運営協議会事業報告書（H30.3.31総括表）によればSOSネットワーク若葉台登録者数は第1四半期15名、第2四半期15名、第3四半期16名、第4四半期10名である。きらっとあさひプラン・第3期旭区地域福祉保健計画・目標Aに記されている向こう三軒両隣に繋がるコミュニケーションの重要性を再確認する必要がある。

若葉台内にはなんでも相談室がケアプラザ内に設置されているが、外部からはなかなか見えづらく、地域における認知度が停滞していると思われるので、中央商店街の空き店舗を一時的に借用させていただき、なんでも相談室を中央に開設してはいかがだろうか。

読売新聞社調査（2017.10.29）によれば孤立死は年間（2016年）に19道府県＋東京都24区で17000人超、神奈川県2947人（死亡者に占める割合は3.80%、東京都4287名（同5.58%）である。若葉台独居者の生活確認と遠方家族への連絡、ICTの有効活用が望まれる。

3) 福祉活動後継者の育成を図る。

きらっとあさひプラン・第3期旭区地域福祉保健計画・目標Dにはボランティアの育成が明記されている。雨天等のため福祉関係イベントが中止になると中学生3年生は福祉体験経験が少なく卒業する。日程変更を含め実施内

容・方法などの検討が必要である。まずは実施日を晴天確立の高い日への変更が望まれる。

さらに近隣大学等の学生・若年層が地域活動への加わる機会を検討し提言・立案する。また高齢予備者の地域デビュー支援にはどのような仕組み・プログラムがあるか検討する必要がある。介護タクシー・配食サービス・ボランティア育成プログラムを作成する。こどもの貧困対応や障がい児への放課後デイサービスに近隣学生からの支援も仰ぐことも考えられる。

4) 災害時の協力体制及び支援体制の整備。

南海トラフを震源とする大地震発生確率が大きいと言われて久しい。若葉台は比較的固い岩盤と耐震設計により建物が建設された。しかし高層マンション上階に住んでいる高齢者・独居者・障がい児者が大災害時や火災の際に実際に安全を確保でき避難できるかを早急に検討すべきである。

各自治会長にはその担当区域の災害時要援護者名簿は配布管理要請されている。しかし実際の災害時・火災時に援護実施可能であるかの検討を連合自治会・地区社協など合同で行う必要がある。合わせて大災害時に必要な助け合いの具体策を検討する必要がある。

5) 若葉台地区付近の高齢者向け施設の必要性を調査・研究すると共に建設に向けた検討をする必要がある。

若葉台近隣の高齢者向け施設の調査・検討・提言をする。若葉台住民の65歳以上が50%を越えるのが直近に迫り、2025年には団塊世代が75歳を迎える。霧ヶ丘に高齢者向け3施設が建設されており、3丁目賃貸の流用等を含めた施設の検討が必要である。

若葉台接骨院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	/	○	○	○	○	○
午後 3:00~ 7:00	○	/	○	○	○	○	/

休診日 火・祝祭日 若葉台 3-3-3

☎045-921-9621

グループ翔「拡大写本の会」

(代表者 伊藤福美子)

視覚障がい者（弱視者）の方、大きい文字で読みたい方の為に拡大写本作りをして若葉台地区センターにて貸出しを行っているボラティアグループ翔「拡大写本の会」です。平成3年秋に誕生してから28年目を迎えました。毎月2回地区センターで定例会を開催しています。写本はすべて眼に優しい手書きにて作成しています。



今年度も若葉台地区社会福祉協議会からの福祉団体助成金で「100歳の精神科医が見つけたこころの匙加減」(作高橋幸枝)の拡大写本の作成を終えて地区センターに配架しました。高齢者の心の問題に寄り添う珠玉の一冊ですので是非読んでみてください。

なお、地区センターに配架の拡大写本で貸出回数の多いトップ10は以下になります。

順位	書名	作者
1	ひとりが、いちばん	橋田寿賀子
2	女は三角 男は四角	内館牧子
3	わたしの脇役人生	沢村貞子
4	鬼平犯科帳(2)	池波正太郎
	本所深川ふしぎ草子	宮部みゆき
	みみずくの日々好日	五木寛之
	こころの処方箋	河合隼雄
8	風 クラシック	池辺良
	六十代の幸福	俵萌子
	にんげんのおへそ	高峰秀子



※代表者の伊藤福美子様は、2月16日開催された第8回きらっとあさひ福祉大会において地域福祉功労表彰されました。おめでとうございます。

「なんでも相談」への誘い

(若葉台なんでも相談代表 高村 忠)

若葉台地区社会福祉協議会（以下、地区社協）

より福祉活動を担っている団体が何をやっているのか判らないという声が一般の人のみならず、社協の理事の中からも聞こえてきている現状をふまえ、今回改めて皆様に「若葉台なんでも相談」の活動についてお話してみたいと思います。

若葉台なんでも相談
月曜・水曜・金曜
10時～16時
☎924-4560

皆様は連合自治会より発行されているコミュニティ新聞「みんなの若葉台」の表題の右隣に毎回

「若葉台なんでも相談」の電話番号、活動曜日、相談時間の表示があるのをご存知と思います。



困り事の相談や若葉台の行事のこと、介護のこと、また不審な電話や手紙が来たときの相談等多岐にわたる日々日常的に発生する困り事の相談や身近なゴミ出しの分類のことまで相談に応じています。

当相談電話のバックアップにはケアプラザや地区社協や民生委員の方とのチャンネルも生かしてできるかぎり誠実に対応するように心がけています。また即座に回答することができないときは備え付けのパソコンで検索し折り返しご返事を差し上げています。

とにかく問い合わせの窓口と理解していただければ良いと思います。電話は1日何度おかけになってもかまいません。またおかけになる「924-4560」の電話機にはナンバーディスプレイ機能は付いていません。また不在の時は留守電機能で対応していますので名前と電話番号を入れて下されば後ほどこちらからお電話を差し上げます。

また相談に際して返電する必要があるときは電話番号をお聞きすることの許可をいただいています。相談員は守秘義務遵守のもとで活動していますので安心して電話をおかけください。

電話の内容は前述の相談以外にも家庭内での親子関係の悩みや夫婦間での悩み、一人暮らしで今日この電話で始めて人と話しする等どんなことでも結構ですので、人と電話で話すことで情緒が安定したり、心に気づきを得て元気になっていただければありがたいと思っています。貴方のお電話をお待ちしています。勇気を出して受話器をとってみてください。

次回は「声の訪問」や「対面相談」についてもお話していきたいと思っています。

カフェわかばボランティア募集

(副会長 峰松雅子)

横浜市立若葉台特別支援学校(横浜わかば学園)では、毎週火曜日～金曜日の10時～14時30分(金曜日は13時)まで、市内で唯一の生徒・職員による「カフェわかば」を運営しています。カフェでは生徒さんが作ったパン・クッキーなどを販売し、カウンターではコーヒーなどの飲物を提供しています。カフェは地域住民の交流の場になっています。運営は基本生徒さんが行っていますが、困ったときの手助け・見守りをして頂ける「ふれあいボランティア」を募集しています。

ご協力頂ける方は、峰松(922-2293)、東海林(921-6497)までお願いします。

お食事サロン「四季彩」

(四季彩代表 亀山ヤエ子)

若葉台も高齢の方々が増えてきましたが、まだまだ元気!!健康寿命を維持するために色々な努力をされている方々を日頃たくさんお見かけします。若葉台の介護率が低いのも個々の努力があるからとおもいます。仲間が元気な事は本当に嬉しい事です。しかし、高齢になって一人の食事も時には寂しさも感じますよね。私たち、サロン「四季彩」は、第4木曜日ケアプラで、お昼ご飯を共にしながら会話を楽しんでおります。食後には外部から演奏に来た方々と懐かしい唄を歌い、また手作り品をつくり楽しんでいきます。参加定員を少なくすることで話しやすく、お互いの顔がおなじみさん

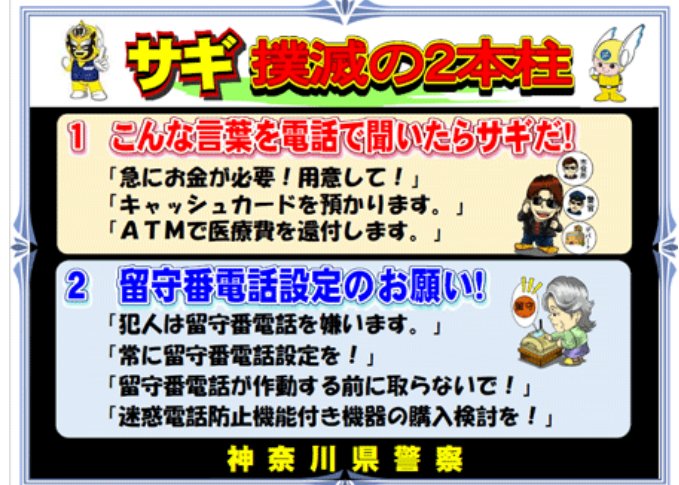
になり次回も会えることが楽しみになります。

関心のある方はお問い合わせください。

(詳細は☎923-8831まで)

※平成27年度から地域包括支援センター(若葉台地域ケアプラザ)との共催で開始された食事サロンです。

《振り込め詐欺にご注意を!》



サギ撲滅の2本柱

1 こんな言葉を電話で聞いたらサギだ!
 「急にお金が必要!用意して!」
 「キャッシュカードを預かります。」
 「ATMで医療費を返付します。」

2 留守番電話設定のお願い!
 「犯人は留守番電話を嫌います。」
 「常に留守番電話設定を!」
 「留守番電話が作動する前に取らないで!」
 「迷惑電話防止機能付き機器の購入検討を!」

神奈川県警察

(2018年の被害額)

旭区 78件、2億1000万円

神奈川県 2604件、57億9800万円

いつも留守電に…

※若葉台でも(11月と12月に1件ずつ)2件の被害が発生してしまいました。10月までは0件で推移していたので残念でなりません。

※電話機は留守電モードに!

《今後の予定》

- 高齢者地域見守り活動報告会 (3月3日)
(事例報告、講演:(福)大樹 山本一郎氏)
- みんなあつまれ (5月5日)

わかば内科クリニック 看護師パート募集中

勤務条件 応相談 時給1,800円以上
内科外来・訪問診療
診療時間 月～土 9:00～18:00
若葉台4-12-105 ☎045-465-4897

【編集後記】

社協だより121号をお届けします。今回は賛助金にご理解頂き有難うございます。その時頂いた貴重なご意見を役立て行ければと思っています。まだまだ寒い日が続きますが健康には十分注意してください。(と)

《編集委員》阿部昭子、入江ゆきよ、太田正廣、奥村利夫、熊谷善友、東海林知子、峰松雅子 (五十音順)

※社協だよりへの掲載記事を募集しています。ご希望の方はお近くの地区社協役員または下記メールアドレスまでお願いします。
Mail: wakabadai.chikushakyou@gmail.com